

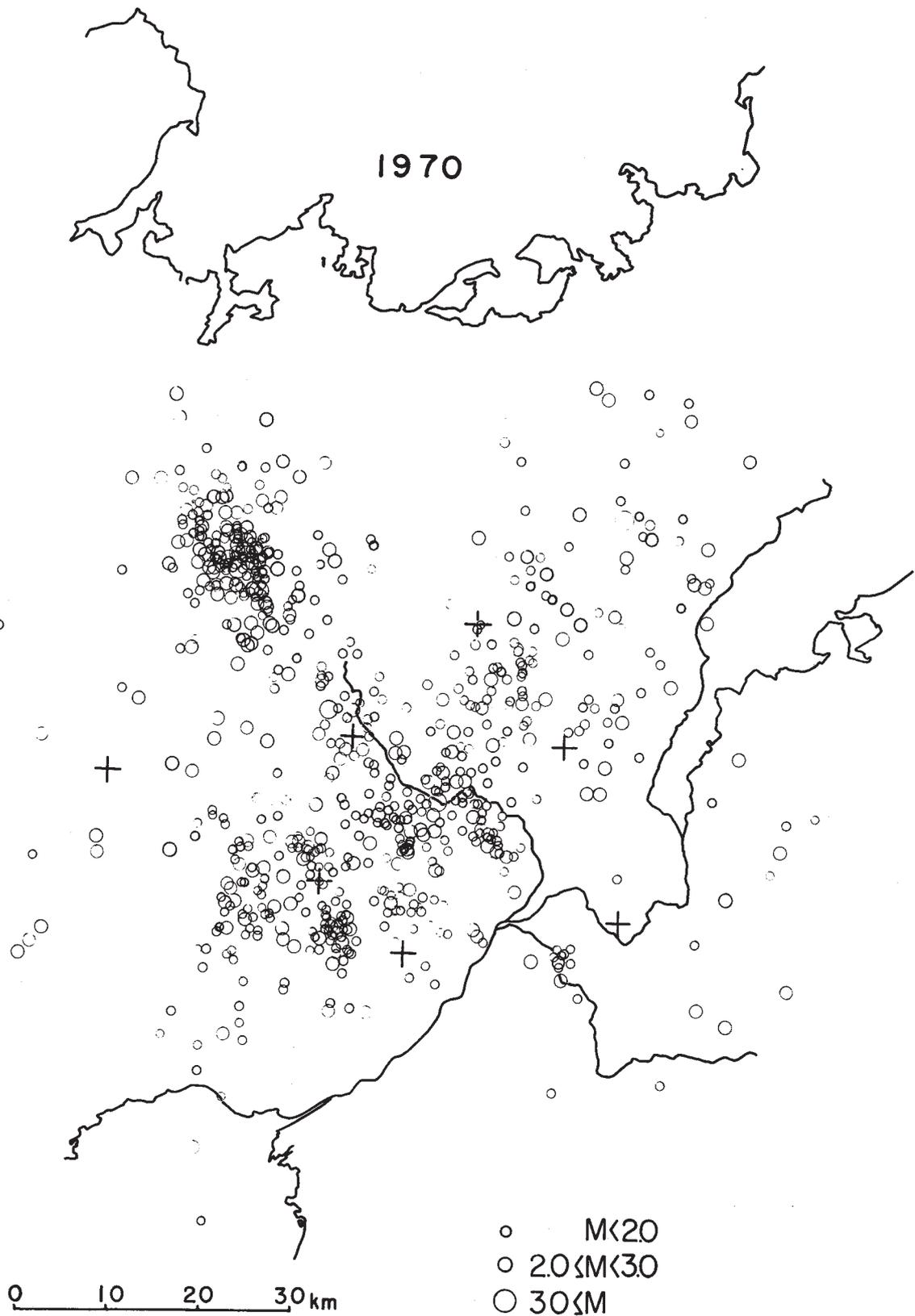
5 - 2 京阪神地区における地震活動, 最近 2 年間の震央分布の推移について

Seismic Activity in the Vicinity of Kyoto during the last Two Years

京大理 岡野 健之助・平野 勇
Kennosuke Okano and Isamu Hirano,
Faculty of Science, Kyoto University

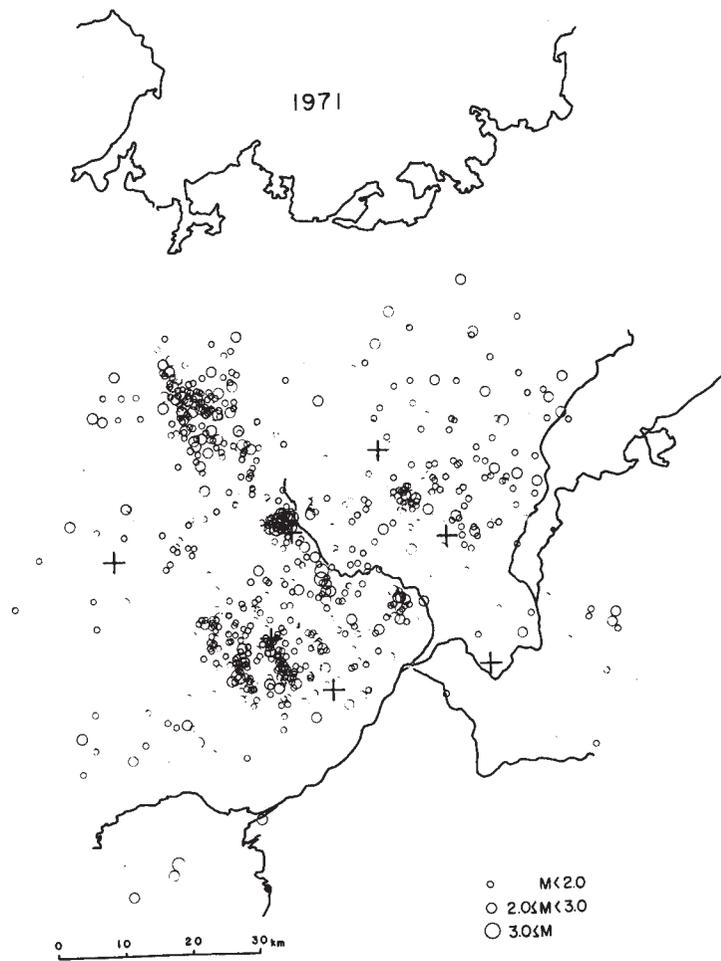
1970年1月以来京都周辺地域に発生した $M > 1.5$ 程度の地震について, その震央分布を地震予知連絡会に報告して来たが, これが2年を越したので, 震央をもう一度調べ直して精度の良いと思われるものだけを選び, それらのマグニチュードを決め, 各年毎にまとめて震央分布図をつくった。これを第1, 第2図に示す。この2つの分布の間には多少の違いは見られるが, 特に異常と思われる変化は認められない。たゞ, 1971年は1970年に比べて, 地震帯の北東部のサイスミシティが低いように見える。

第3図は1972年の1月~4月の震央分布図である。この図から見て, 最近の地震発生の様子に著しい変化は見られないが, 多少気をついた点をあげると, やゝ地域的に集中して発生していることである。特に八木町(⓪)から南東方向にのびる地域はサイスミシティが特に大きくなっていることを示している。会報第5巻に報告した1968年8月の京都府和知町の地震($M=5.6$)の余震域が南東方向にひろがって来たように見えていたが, これが淀川地震帯にぶつかって更に余震域をのばしたと考えることも出来る。そうとすれば, 1971年4, 5月に八木町の西に発生した群発地震もこのことと関連しているのかも知れない。しかしこれは分布図から見た単なる感じだけで, 和知地震との関連など全くないのかも知れない。関連があるものであれば地震の発生機構の研究上大変興味あることと思われるので今後の推移を見守りたい。



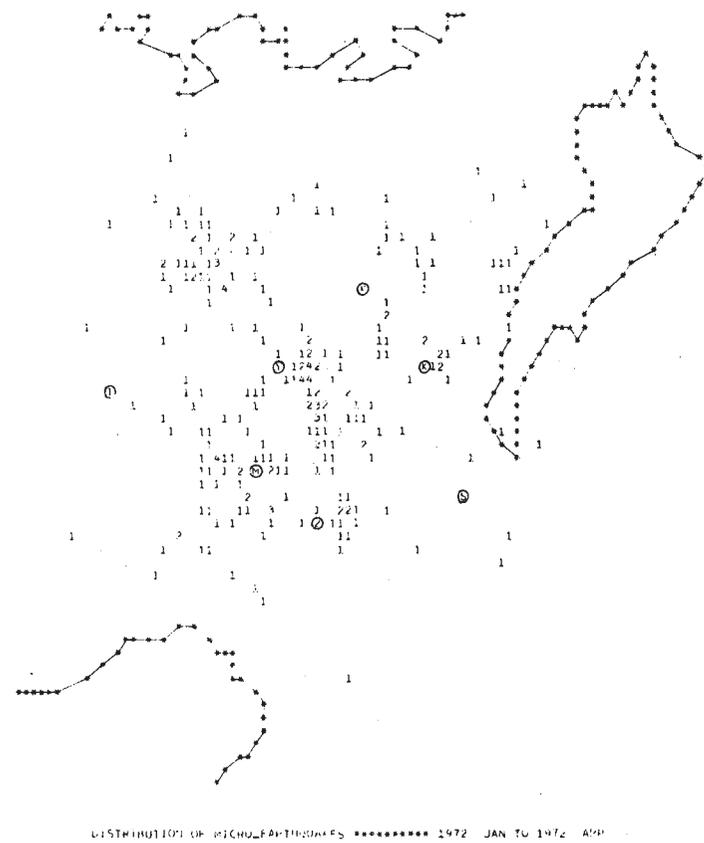
第1図 京都周辺地域における震央分布（1970年1月～12月）

Fig. 1 Distribution of earthquakes in vicinity of Kyoto (Jan. 1970 to Dec. 1970)



第2図 京都周辺地域における震央分布 (1971年1月~12月)

Fig. 2 Distribution of earthquakes in the vicinity of Kyoto (Jan. 1971 to Dec. 1971)



第3図 京都周辺地域における震央分布 (1972年1月~4月)

Fig. 3 Distribution of earthquakes in the vicinity of Kyoto (Jan. 1972 to Apr. 1972)